



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第四十三号〜

秋分 しゅうぶん
九月二十三日

子どものけんか

秋というと、運動会、遠足、文化祭と学校行事が続きます。特に旗などで運動場を飾りつける小学校の運動会は、親子で楽しめる年中行事になっています。

運動会は、日本では明治七年に海軍兵学校でイギリス人教官の指導のもと始まりました。よほど日本人の嗜好にあったのか、当時の文部省が推奨したせいか、社会的な年中行事にまで発展したのは日本だけだとか。実は学校の運動場整備の普及に一役買ったのも運動会なのでした。

しかし、小学校に広い運動場ができると、子どもたちは放課後もそこで遊ぶかというと案外そうでもなく、もっぱら家の近所の広場や道で遊んだものです。古老の方は昭和十年代の頃は、男子はメンコなどで遊び、隣町の子どものけんかが一大イベントだったと教えてくれました。

隣町の一つ、桜木町とは猿田彦神社横の黒門橋が境で、牛谷坂を子どもたちが下ってくるとケンカが始まります。石の投げ合いだったそうですが、宇治の子どもたちの武器は空気銃。スズメ撃ち用の空気銃を使ったそうです。当時、宇治にはスズメ撃ちがいて、その空気銃が子どもたちの最新鋭の武器に選ばれたのでした。

もう一つの隣町は、中村町。今の国道二十三号と御幸道路みゆきみちが分かれる赤福女子寮の裏手の丘が境でした。中村町は丘の上から、宇治は丘の下から石の投げ合いをしました。学生服のポケットいっぱいいっぱいに小石をつめ込み、向かったそうです。ある時には、中村町の子どもが農耕用の大きな牛を連れて来た時もあったとか。それは驚いたと古老は昨日のこことのように笑いました。

子どもたちの元気な声が似合う秋の空です。

文 千種清美

